

JR東日本とJR西日本は、障がい者割引乗車券をネットで申し込めるサービスを開始する。

7月4日、J R 東日本とJ R 西日本は、来年の春頃に障がい者割引乗車券（身体障がい者割引乗車券・知的障がい者割引乗車券）を、ネット（J R 東日本は「えきねっと」、J R 西日本は「e5489」）で申し込めるサービスを開始すると発表しました。

J R 東海は、J R 東日本とJ R 西日本が発表した7月4日から約2週間経っても、ネットで申し込めるサービスについての発表はありません。

現在は、障がい者割引乗車券を購入する場合は、駅に出向いてみどりの窓口で身体障がい者手帳情報、療育手帳情報を提示しなければなりません。ネットで障がい者割引乗車券を申し込めれば、駅に出向くことはなくなり便利になります。

J R 東日本とJ R 西日本は、マイナポータルに登録済みのマイナンバーカードを用いて、身体障がい者手帳情報、療育手帳情報をオンラインで確認します。

JR東海労は、これまで繰り返しネット予約を申し入れ！ しかし、JR東海は「実施する予定はない」

J R 東海労は、お身体のご不自由なお客様などが駅に出向いて窓口で身体障がい者手帳、療育手帳を提示しなければならないシステムの改善にむけて繰り返し申し入れを行っています。2021年11月11日と2022年6月28日に、『東海道新幹線・山陽新幹線のネット予約サービス「エクスプレス予約」「スマートEX」で、障がい者割引が適用できるようにシステムを改修すること』を申し入れていています。

しかし、会社（J R 東海）は、「実施する予定はない」という不誠実な対応を行っています。今回、J R 東日本とJ R 西日本がネットで障がい者割引乗車券を申し込めるサービスを発表しても、J R 東海においては動きはありません。

さらに、J R 東海は、10年～15年後にかけて800億円の経費削減と2500名の要員削減を目標とした「業務改革」を実施します。具体的には、「駅の無人化」が拡大され、「3両以上のワンマン運転」など、お身体のご不自由なお客様などにとっては、「不便」「不安」「不安全」になります。また、現在使用している新幹線用のスロープに不具合（スロープのフックが車両のデッキにしっかりとつかからない）発生していますが、スロープの不具合を改善する動きはありません。

以上のように、J R 東海におけるお身体のご不自由なお客様などへの対応は不誠実なものになっています。

J R 東海労は、これからもねばりつよくお身体のご不自由なお客様などが「便利」「快適」「安心」に、ご利用できる鉄道の実現にむけて取り組みます。